

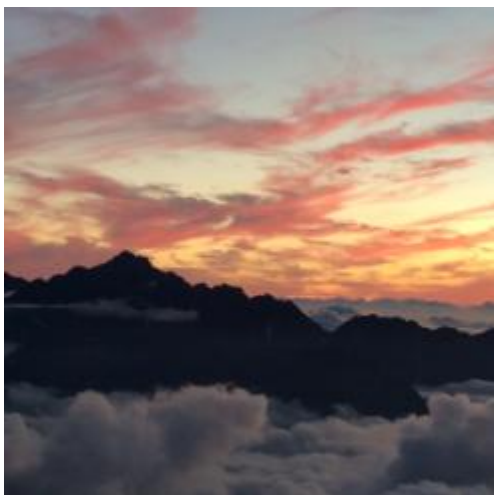
## 北アルプス唐松岳～祖母谷温泉～白馬岳縦走

参加者：曾我部信也、和田穰二

日程：2015年9月19日(土)～23日(水)

山仲間の曾我部さんより懐かしのルートのお誘いがあった。彼は五日市高校卒で現在埼玉の某病院に勤める薬剤師さん。薬、栄養剤の類は常に持ち歩いており、年寄りには大変心強い。祖母谷～不帰～清水～白馬と聞き年も考えず乗ってしまったが、約50年前は重荷、今回は齢と背負っているものは変われど、大変なルートであった。天候にも恵まれ何とか計画通り縦走出来、曾我部さんに感謝、感謝。

9月19日(土)晴 八方尾根9:00発→唐松岳頂上山荘着14:20



18日夜、新座駅で待ち合わせKCへ。KC着2時。KCにて仮眠後八方尾根黒菱駐車場に向かう。駐車場からリフト2機を乗り継ぎ登山開始。不帰嶮の岩稜を眺めながら人気の八方池を過ぎると登る人は少なくなる。途中雪渓が残っている。今年は残雪が多いようだ。ハイマツ帯から稜線のガレ場を越えると唐松への稜線に出る。目の前に剣、立山の稜線が拵がっている。

9月20日(日)晴 唐松岳山荘5:35→大黒鉦山跡8:15→餓鬼山10:35→南越水場13:30→祖母谷温泉着16:50

唐松山荘からテン場を抜け、急なガレ場を巻き気味に下っていくと唐松からの尾根にでる。尾根道を下っていくと、やがて緩やかとなり木道が現れる。水場への分岐点を過ぎると間もなく広々とした大黒鉦山跡にでる。水場も近くテン場の候補地だ。餓鬼岳への尾根道は両側が切れ落ち傾斜がきつく、ハシゴやロープだらけだ。餓鬼岳頂上は登山道からほんの数メートル離れた所にある。ここからは後立山の稜線がよく見える。頂上からの下りも登りと同様、ハシゴ・ロープが多く慎重に進む。やがて緩やかな下りとなりきれいな避難小屋にでる。近くに水場があれば良いところだが。ここで大休止。南越峠より祖母谷温泉までは北斜面の湿った谷の急な下りとなる。祖母谷温泉近くになると更に谷道はぬかるみ滑りやすくかなり気を使う。道は一旦祖父谷に降りる。ここから祖母谷温泉まではかなりの悪路で、和田の膝がついに悲鳴を上げ、かなりの時間を要してしまう。温泉に浸かりビールをいただく。

9月21日(月)晴 祖母谷温泉 7:30→不帰岳避難小屋 15:30

この道は大学1年夏合宿の思い出の入山路である。ベースキャンプの清水岳までに3日を要し、雨の中を寝るなど、全くいい思い出はない。祖母谷温泉から車道を進み、名剣沢の大きなガレ場をトラバース気味に登り山道に入る。不帰岳の稜線に出るまでは、徐々に高度を上げながら名剣山から百貫山の斜面を登っていく。途中大きな沢が一本と



数本の沢があり、道はあまり良くない。不帰岳への稜線にでると森林帯の中幾つものピークを巻きながらアップダウンを繰り返す。ガスがでてきて見通しは良くない。不帰岳直下をトラバースし漸く避難小屋に着く。先客は女性3名と男性1名で我々2名と合わせ6名の泊り客。水場はすぐ近くにあり食事の準備をする。暫し皆さんと歓談。

9月22日(火)晴 不帰岳避難小屋 7:10→清水岳 10:30→白馬岳山荘 15:30

皆さんを見送り避難小屋を最後に出発。清水岳への道はナナカマドの身が赤く色付いている。左手に見える尾根は大学1年の冬山合宿の地、突坂から猫又へ続く尾根か？景色を眺めながら進む。清水平は1年夏固定の地。なだらかな山頂に気持も落ち着く。頂上から南に下ったハイマツの切れ目辺りがベースキャンプ地ではなかったか？眼前には当時と同じように剣、立山の山々が連なり、遠くにはぼっかりと槍ヶ岳が浮かんでい。柳又源流を左手に見、旭岳の裏を通り白馬山荘へ向かう。

9月23日(水)晴 白馬岳 6:10→猿倉 10:45

今日は下山日。朝食後猿倉を目指し白馬大雪渓を下る。この時期、大雪渓もかなり痩せてきている。下からは登山客が登ってくる。皆さん白馬を仰ぎ見てきつそうだ。今回の山行の余韻を楽しみながらゆっくりと下る。

記 和田